

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400129		
法人名	株式会社アガペ		
事業所名	アソシエ飯倉		
所在地	福岡市早良区飯倉5丁目21-4		
自己評価作成日	平成25年11月19日	評価結果確定日	平成26年2月14日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

様々な年齢層の職員が働いており、多くの視点からケアが出来ている。また、他事業所の見学を多数受け入れ交流することで、たくさんの意見交換を行いケアに活かしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成25年12月17日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームアソシエ飯倉」は福岡市のモデルケースとして小規模多機能と併設して作られた2ユニットグループホームである。各所に余裕をもった木造の贅沢な造りで、グループホームと小規模多機能は中庭を挟んでコの字型に配置される。住宅街の一角にある閑静な立地で、近隣にはスーパーもあり日常的な散歩や買物も楽しみやすい。事業所の内装も白木がふんだんに使われた柔らかい雰囲気である。職員の明るさもあいまって全体的に活気のある様子が感じられた。開設時から長く勤める職員も多く入居者も安心して生活を送っている。母体法人の理学療法士や管理栄養士などの専門家との連携をとって食事やリハビリテーションに取り組んでおり、本部と共同した初任者研修、管理者研修、合同会議などによって事例を共有してスキルアップが図られている。法人名の「アガペ」が意味する「無償の愛」の通り、奉仕の精神でケアに取り組まれ、地域との関係も徐々に深まってきている。今後も地域福祉の中心となるような関わりや情報発信が期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	就業始めに、アソシエ飯倉の理念を職員全員で唱和しています。今日一日の理念として、職員同士で、共有して実践しています。	毎朝申し送り時に理念の唱和をしており、今では全職員が暗唱できるほどである。「アソシエ」に込められた「人とのつながり」の意味を共有し、法人研修でも代表者から直接、思いが伝えられる。実践者研修でも理念を振り返る機会を持ち、事業所でも学んだことを伝達、共有が図られていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会費を納め、地区行事、公民館活動に積極的に参加し、夏祭り、運動会、バザー等に利用者様と共に参加しています。	これまでに2回行った夏祭りでは、近隣の飲食店やテニススクールに案内と食券を置かせてもらって通知して一般の人も招き、盛況だった。地域行事にも参加しており、福祉事業見学の受け入れも行った。日常的にも気軽に訪問があり、花の差し入れや、新品のポータブルトイレの寄贈を受けたこともある。地域からも気にかけてもらい、立ち寄りやすい雰囲気を作って相談を受けることも多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校の生徒がバリアフリー見学をしに訪問されている。交流することで様々な窓口になれることを目指している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議を実施。行事、施設の状況報告。ご家族の悩み、相談を話し合っています。会議の中での問題等は次回の課題にしています。	運営推進会議は小規模とも合同で行い、家族も複数参加している。話しやすい雰囲気です。ざくばらんに意見を出し合い、活発に話し合いがなされている。家族には全員に案内し、行政へも案内を行う。会議内容は面会時などに口頭で家族へ報告を行っている。	家族の参加も多く、話しやすい雰囲気です。会議は活用されているが、参加者の幅を広げて、内容に変化をもたらすために、地域代表や近隣の方への呼びかけ、参加を促してはどうだろうか。月によっては開催日を柔軟に調整することで、参加者が増えていくことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市から見学に来られ、事業所の実情や状況を伝えていきます。事業所のサービスがスムーズにいくよう、連絡を密にし、運営推進会議参加の依頼をしながら運営に際し不明な点を相談しています。	市のモデル事業ということもあり、担当課との連絡ややりとりの機会は多い。介護保険申請なども窓口を訪問して行き、相談事も迅速に行なっている。細かい事でも曖昧にならないよう、報告、連絡、相談を欠かさず行っている。毎年市の監査も受けており、研修で顔を合わせることもあり、相談しやすい関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、スタッフともその都度話し合っています。落ち着きがなく、不穏行動をとられるような時はしっかり見守り、傾聴しながら寄り添い一緒に行動します。玄関の施錠はせずに対応しています。	内部研修によって職員にも高速行為の周知を行う。日常的にも小さな行為から管理者が指導し、徹底して、モラル低下に備えている。基本的に拘束しない方針で四点柵、車いすベルトの使用もなく、夜間のみマットセンサーで対応している。玄関は夜間のみ施錠し、不穏時は付き添って外出して落ち着くように対処している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会をミーティングで設け、日頃からの状態観察、見守りに努めています。		

H25自己・外部評価表(GHアソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングで日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ちました。。該当する方もあるので、しっかり学び、関わる方々と話し合い、活用して行きます。	前回の外部評価後から権利擁護に関して、資料を作成しミーティングにも取り組み、知識の共有を進めた。成年後見を利用する方が3名おり、入居後に支援を行った。日常生活自立支援事業の利用もあり、事例を共有して制度の理解を図っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は重要事項説明書、契約書を十分理解した上で、説明しています。不明な点がないかの確認も行っています。解約、改定時にも書面で分かりやすく説明しています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で利用者や家族が包括や自治会長、民生委員等、外部者に意見、要望を表せる機会があり、運営に反映させています。内容は記録に残し、スタッフがいつも閲覧できるようにしています。	家族の面会もまめであり、直接話しを聞く機会も多い。退院後の医療ケアに関しての不安も話を聞くことで軽減している。遠方の家族には手紙のやりとりや電話によって報告をしている。挙げられた意見は申し送りや会議、日々の伝達によって共有している。	運営推進会議にも家族の参加は多いが、家族会の開催によって家族同士の交流機会が持たれることにも期待したい。また、挙げられた苦情や意見を受付票などに記録することで、より運営への反映につながる事が望まれる。日頃の状況報告も写真やアルバムなどを活用してわかりやすく伝える方法を検討されてはどうだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は申し送りノートや対応変更ノートの書面に記録しています。スタッフの確認も行い、職員間の連携を円滑にできるように努めています。	毎月の全体ミーティングには全員が参加し、職員の提案に積極的に取り組み、申し送り、日誌の改善につなげた。気づいた時にいつでも意見を挙げられ、年に1、2回の個別面談でも悩みの相談や目標に関して話す機会が持たれる。日頃からも相談しやすい雰囲気が作られている。意見は前向きに検討され、反映につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のレベルアップを図る為に、外部から講師を招き、介護技術の指導をしています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	現在の職員の年齢状況は20歳代から60歳代まで、幅広く、職員皆、一人一人が、その能力を発揮できるように配慮しています。新人職員には新人職員研修で人権教育、接遇の研修を行っています。	研修にも勤務として参加しており、研修は案内され、職員からの希望も受け、法人全体での研修機会も多い。職員の年代の差はあるがお互いに意見は言いやすく、男性職員も比較的多い。休憩時間や場所も確保され、シフト調整も相談しながら希望を取り入れている。それぞれ担当係をもって役割分担し、レクやお菓子作りなど能力を活かして職務にあたっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月のミーティング、勉強会で、接遇、人権教育について、研修をおこなっています。	日頃のケアでも呼びかけなど指導しており、職員が参加した外部研修をもとに、申し送り時に伝達も行っている。入職時には新人研修として、人権教育などのオリエンテーションも行っている。	外部の人権研修などに参加した時の伝達を、資料回覧などを使ってさらに共有が図られることが望まれる。また人権団体の行う啓発活動や人権教育などの情報を収集して、事業所全体での啓発が進められることにも期待したい。

H25自己・外部評価表(GHアソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の研修、アソシエグループ全体で介護研修、管理者研修、外部研修に積極的に参加できるようシフトを管理しています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域ケアマネ会の出席、ネットワークづくり、勉強会出席し、サービスの質を向上させています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入居時に、入居者様との交流を図り困っていること、不安を傾聴しています。契約・アセスメント・担当者会議等を通してご本人様の要望にお応えできるようにしています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階で、家族の不安なことなどをお聞きし また、要望にも耳を傾けご家族と共に問題解決していくよう心がけております。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の要望、ご家族の要望を把握し、必要なサービスを提供できるよう努めています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と一緒に過ごす時間を多く設け、会話等 昔の思い出話を傾聴しています。会話することにより少しでも精神的な安定、安心感が得られるよう配慮しております。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と利用者の絆が深まりますよう誕生会はその日に行い、ご家族と一緒に事業所内で楽しむ機会を設けています。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出を通じて 近くの馴染みの場所や、福祉ボランティアの人たちとの交流を持ち地域の活動も参加できるように支援しています。	入居前からの友人の来訪を受けたり、電話を取り次いでおり、習慣を継続して教会への礼拝などを家族と協力して支援したこともある。遠方の家族に対しては手紙の支援も行う。馴染みの美容室に行ったり、近隣の方はドライブがてらに自宅周辺や懐かしい場所を訪れたりもしている。	

H25自己・外部評価表(GHアソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格、出身、生活歴など幅広く考慮し、個人個人がコミュニケーションがとれるように、時にはスタッフが間に入って、取り持ち、支え合えるような支援につとめています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、これまでの関係性を大切にして、本人様が動揺されないよう、必要に応じていつでも相談や支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりや、スタッフとの会話等から思いを尊重し、何度も話し合う機会を作ります。そして暮らし方の希望に努め把握できた事に関しては記録に記載することで、スタッフ間の情報共有に努めています。	事業所全体「ケアプラン検討用紙」を活用し、担当者とユニットリーダーが協力して現場の意見を反映させている。本人の思いや意向を全体で把握し職員間でも共有している。意思疎通が難しい方には日頃の表情を読み取ったり、レクへの関わりを観察したりすることで取り組んでいる。口腔ケアを嫌がる方に対しても、職員の意見から本人の気持ちを読み取り、検討、共有することでケアがスムーズに運ぶようになった。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や暮らし方を本人様にお聞きしたり、ご家族に聞き、支援経過の把握に努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録を綴り、持つる能力の把握に努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様に面談しアセスメントを行い、よりよく暮らすためケアプラン作成を行い実行することで、利用者さまの暮らしを支えています。月1回のミーティングの中で、スタッフ間にて情報把握に努めています。	「ケアプラン検討用紙」を全職員に配って担当者が関わり、3ヶ月毎にプランの見直しを行っている。毎日のサービスの実施状況とプラン目標を照らし合わせることで毎月のモニタリングを行い、3ヶ月毎にはケアマネージャーがプランのモニタリングにつなげている。ケアプランの見直し時に担当者会議を行い意見を聞き取っている。	日々のサービス状況とモニタリングによって、プランをケアに反映させているが、担当者会議の記録に本人、家族、専門家などの意見照会や参加を求めていくことで、より詳細なプランの作成につなげることに期待したい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は記入し、職員間で情報を共有できるよう、申し送りノート、対応変更ノートを準備し、記録をしっかりと執るようにしています。ミーティング時に各入居者様の目標達成度や今後の課題を話し合っています。		

H25自己・外部評価表(GHアソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	午前、午後に限らず、落ち着かれない行動、帰宅願望の強い入居者様に対し、個別対応し気分転換を図って、外部にお連れしたり、一緒に作業を手伝って頂き、居場所を作っているようにしています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所内で解決できない事等は入居者様 在往の包括と連携を持ち、連絡、相談しています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設の連携病院にて往診されている入居者様のほかに、本人、ご家族希望にて入所前からのかかりつけ医に受診されている方もいます。	以前からのかかりつけ医は継続してもらえ、提携外病院への通院は基本的には家族に支援してもらっている。必要なときなどは事業所からも通院介助を行ったり、同行して状況報告をすることもある。提携医利用の方は2週に1回往診があり、併設の小規模多機能との看護師とも連携をとって体調管理を行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師にいつでも医療についての助言をもらえるような連携システムを取っております。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様のキーパーソン、家族に情報を共有し、連絡をとりながら、退院にむけて病院関係者との関係づくりを行っています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の重度化、今までに見られなかった行動、出来ていた事が出来なくなった時、ご家族と話し合い事業所ですることを説明し共有し支援に取り組んでいます。	今までに看取りの事例もあり、家族の同意を得て協力してもらいながら看取りプランも作成して対応している。説明時は主治医にも立ち会ってもらい、希望があれば終末期でも受け入れる方針である。事例は共有してミーティングでも話し合い、マニュアルも作成されている。必要時には訪問看護とも医療連携をとり、家族とも納得いくまで話し合っ支援している。	将来的なターミナルの受け入れに備えて、さらに職員間での情報共有を進めていくほか、研修や勉強会などによって理解を深めていくことに期待したい。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、連絡網を用意し主治医に繋ぎ、定期的に対応の訓練に取り組んでいます。		

H25自己・外部評価表(GHアソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、特に火災、地震に関して定期的に避難訓練を行っています。消火器の使い方、避難経路について日々、訓練を行っています。	併設の小規模多機能と合同で年に2回防災訓練を行い、内1回は消防署と合同で行い、警備会社にも立ち会ってもらっている。訓練以外にも設備点検などで振り返りの機会は多く、夜間想定も行っている。緊急連絡網には町内会長も入ってもらい非常時の協力を呼びかける。スプリンクラーなどの防災設備も完備されていた。	地域の協力を深めるために、地域防災の情報収集や参加の検討、また、防災訓練への参加の呼びかけがなされることが望まれる。備蓄物の確保についても検討されることに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の呼び名をお名前前で丁寧にお呼びし、言葉使いに気をつけ尊重重視を心がけています。	目上の人に対しての言葉遣いに気をつけ、職員も入居者を自分の身内として接するように親身な対応をこころがけている。日常的にも管理者からの指導やミーティングでの話し合いを行い、法人全体で開かれる2ヶ月毎の研修にも参加して接遇やプライバシーに関して学習を行っている。	日頃から対応に注意し、研修でも理解を深めているが、外部研修などに参加した際の、伝達研修や報告レポートの活用、資料の回覧などを行うことでより事業所内での情報共有が進められることに期待したい。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来ない、思いを言えない寡黙でおとなしい入居者様に対しては、入居者様が言えるような雰囲気づくりを心掛け、利用者の背景を思い、関心の有ることを話題にします。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あくまで、入居者様本位なので、入居者様のペースを尊重して、希望にそって支援しています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように、着こなしを褒め、全体の調和を褒める。入浴後のヘアスタイルをセットしています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事は楽しみなものなので、安全に、安心して食べて頂くよう、入居者様に合わせて工夫しています。また、片づけは毎日一緒に行っています。	カウンター式のキッチンによって対面して一人でも食事ができる。本部の管理栄養士が作成したメニューによって食材が毎週配達され、なま物は1時間前に新鮮なものが届けられる。調理は職員が行うが、レシピも細かく指示され、調査当日のメニューも品数多く、入居者にも美味しく食べられていた。できる方は配膳など手伝い、おやつレクなどで一緒に調理することもある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事の量、主食、副食の量を記入し、今日の体調はどうか結び付けます。		

H25自己・外部評価表(GHアソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で歯磨きできる方は出来るだけ一人の力で実施して頂き、職員は出来ない部分のみお手伝いをしています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターン、習慣を把握し、起床時、食事前、入浴前、就寝前のトイレの声掛け、誘導を行い、習慣としています。	ユニットごとに1日1枚の排泄チェック表があり、パターンや誘導時間を管理している。自立した方には排泄有無の把握のみに留める。自分でできることは自分でしてもらい、利用者の負担軽減の為、適切なパンツの使用を働きかけており、気づいた職員がその都度提案して変更している。排泄リズムを把握して介助することで失敗や汚染の解消につながったケースもある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通の回数を記録し、便秘をしているかどうか分かるようになっていきます。水分補給や調理法に工夫しています。また、ご家族と相談し、便通が良かったときに摂取していた食べ物などもお出ししています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に曜日は決まっていますが、女性職員と入浴したいという利用者の希望や、午前、午後などの希望を聞き、個々にそった支援をしています。	脱衣場や浴室内の冷暖房、1階には機械浴も備え付けられ、使いやすいように配慮されている。基本的には一人週2回の入浴で、時間帯は希望を聞きながら対応しており、夕食後の入浴の希望に応えたこともある。個浴で普通浴槽の2階ユニットを利用して入浴する事が多い	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子観察し、体調変化、体調不安が見られる入居者様には居室に誘導 ゆっくりと休んでいただきます。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書のコピーを頂き、薬の効果、副作用も良く理解ができるよう個人ファイルの中に保存し確認できるようにしています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書き物の好きな入居者様に、毎日食事のメニューを記入して頂くなど、一人一人の力を活かした支援を行っている。		



H25自己・外部評価表(GHアソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事前計画を立てている外出以外でも、天気がよくて入居者様が「出かけたたい。」と言われたときに、外出することがあります。	季節ごとの外出レクや、気候のいい時には少人数でのドライブなどが行われる。予定しなくても、その日の希望でアイスを食べに行ったり、買い物にいたり、個別での外出に対応することもある。車いすの方も同じように外出を楽しみ、外に出られない時も、中庭やテラスでの日光浴や、お菓子の移動販売などで気分転換が図られている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はご家族や本人の希望により施設で預かっている入居者様と、少額ですがお金を所持している入居者様もいます。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話できる方は電話を掛けて貰い、手紙が書ける方には葉書や、便箋の用意をしています。ご自分で携帯電話を所持している利用者もいます。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温の変化に合わせてエアコンの調整、加湿器、扇風機、床暖房の利用を工夫しています。	リビングの南北を全面掃出窓で囲まれ、陽の光もよく差し込み、開放的で、緑を眺めながら自然を感じ取ることができる。スペースも広く、ダイニングテーブル、ソファなどがゆとりをもって四隅に置かれ、入居者もそれぞれの場所で気の合う人同士や、一人でもくつろげる。キッチンにはカウンターもついており、食後のお茶や職員の隣に座ってのおしゃべりなども楽しまれていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事をされる時、気の合った人同士、お話しが進むように、配慮して席の移動を心掛けています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を希望されている入居者様の要望には、しっかりお応えしております。	全室洋室だが、床にパネルカーペットを敷いて直接座って休めるようにすることもある。ベッド、タンスは事業所によって備え付けられ、テレビなど使い慣れた家具を持ち込む方もいる。南向きの部屋は障子窓で柔らかい光を取り入れ、入り口上部の収納棚には季節物を収納して整理がなされていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで段差なく、車椅子で自由に動けます。手摺りが玄関からリビング、居室、廊下、トイレ、浴室に付いています。ベッドも電動で高さ、傾度も身体に合わせてられます。		